

昭和50年4月同大学卒業

< 職歴 >

昭和50年4月「株近畿〇〇銀行」入行

平成7年6月同行退職

平成7年頃より上記の現勤務先に契約社員として在職

< 婚歴 >

昭和〇〇年〇〇月「〇〇〇 子」と結婚

夫婦は1男2女を儲け、現在迄に離婚の形跡なし。

◎経歴の概要

昭和〇〇年〇月本人は、大阪府大阪市西成区に於いて、父親・〇〇幸夫、母親・〇〇圀子の長男として出生しており、妹・〇〇と2人兄妹である。

大阪市で生まれた本人は、其の後も大阪府内で成育したと伝わり、根っからの大阪っ子と言われる。諸々の判明事項と照合しても、大阪から遠く離れて他所へ居住した形跡は覗えず、此れ迄の人生を過ごした地域は、大阪市と其の近隣に限られると判断される。

幼少期から学齢期の話題を入手すべく、各方面への聴取に努めたが、本人の成育した住所地は明らかとならず、現在確認される公簿から更に遡らなければ、生育地の判明は困難な状況である。

上記本人の本籍地は、伊予鉄道各線が乗入れる松山市駅の北口前、駅前繁華街の一面に位置する。駅地下街の「まつちかタウン」を通

れば、当該住所地の目前へと出られる。現在同地では、本人の家系と無関係な人間が、お好み焼き屋を経営していた。

近隣へ聞及んだ結果、戦後に「〇〇」姓の老夫婦が暮していたとされ、40年程前には遺産相続の関係から土地を失い転居、其の後の消息を知る者はいない。現在存命していれば、年齢は百才に届く程とされる。同所に暮した老夫婦に子供はなかった様で、細々と自転車預かり業を営んでいたが、大阪方面に老夫婦の実兄が一人いたと聞かれる。この大阪の実兄と云う人物が、本人の曾祖父に当たるのではないかと推考されるが、此れ以上の確認の術もなく想像の域を脱しない。

上記大阪の実兄と云う人物は、早くから親を捨てて上阪した白状者と伝わり、親の他界後は長男と云う続柄から、弟夫婦が暮す土地や家屋を遺産相続したが、其の土地家屋を何の断りもなく売却して得た金は自らの懐へ入れてしまったらしい。住まいがなくなった弟夫婦は、移転先も見つからず困っていたと云うが、売却先が悪かったのか暴力団関係者が連日訪れては、立退きの嫌がらせが相当なものであったと云う。

本籍地からは成育地に関する手掛かりは得られず、本人の実家の確認へと調査を移行すると、本人の実家は「大阪府大阪市〇〇区〇〇東〇ー6ー14」に所在していた。しかし、同実家は、本人が親元を離れたずっと後、昭和62年から両親等が居住しているに過ぎず、其れ以前の住所地を知る者は周囲には見当たらない。

公簿から実家の前所在地を特定した所、実家の前所在地は「大阪市〇〇区〇〇4ー〇ー15」であった。同所は、近鉄南大阪線・今川駅南西400m内外、阪神高速14号線の南側に広がる住宅地の

一面に位置する。付近には一戸建を中心とする低層住が立並ぶ。

本人の実家は、以前同所に立地した長屋に入っていたが、何れにしても昭和49年からの居住であった模様で、本人が同所に居住した形跡はなかった。其の頃の父は、新聞配達員として勤めに出て、母は専業主婦であったと聞かれる。

昭和43年4月本人は、大阪府枚方市に所在する「大阪府立枚方高等学校」（上記）へ入学、同校普通科を昭和46年3月卒業している。高校卒業の年の昭和46年4月には、現役入学にて「私立関西学院大学」（上記）へと進学し、4年間の就学を経て昭和50年3月同校商学部を卒業したと聞かれる。

大学側からの確認には至らなかったが、本人に近い筋からの情報である事や、其の後に大学新卒卒にて就職している事から、上記大学卒業に相違ないものと判断した。

大学を卒業すると、昭和50年4月「近畿〇〇銀行」へと入行、銀行マンとしてのスタートを切っている。尚、同行は平成元年「㈱近畿〇〇銀行」（本店：大阪府大阪府中央区〇〇1-〇-27、06-〇〇〇〇-2121）へと商号変更されている。

社会人となってからの本人も、大阪府内に居住していた模様であり、25才であった昭和〇〇年12月「〇〇 〇〇子」と結婚した。同年齢の〇〇子は、奈良県の出身者であると聞かれ、本人とは創価学会の活動を通して知合ったと伝わる。

結婚後の本人の夫婦は、大阪市東住吉区の「〇〇マンション」（同区〇〇2-6-4）へ入居、同所に居住中に1男2女を儲けている。マンションとは名ばかりの老朽した安アパートにて、一家5人で長

らく暮した本人家であり、銀行マンである本人が安月給でもなかろうと、周囲では「こんな安アパートで窮屈に暮していたのは、宗教活動に随分と浪費していたからだろう。」と蔑みの意を込めて話す。

銀行入職後の本人は、営業職として渉外課に所属、定期的に大阪市内の各支店を移動したものの、遠方への転勤はなかったとされる。銀行マンとして18年に渡り勤務、最終的には渉外課長に就いていたが、平成5年2月自己都合により退職している。

当時の本人の勤務状況について、近畿〇〇銀行本店人事部からは、書類上の資料しかなく判断不能と云う回答であり、賞罰の有無に関してさえも答えはなかった。本人が退職前に勤務した支店の一つ「〇〇支店」（大阪市東〇〇区鷹合〇-1-8、06-〇〇〇〇-7001）へも聴取したが、配置換えや人事の入替りもあって、本人の在職当時の様子は把握していないとされた。

前勤務先側の体質から、詳細に及ぶ内容が得られないのは致し方ないとしても、人事での対応が途中で上役に取り変わっている事や、対応者の言葉端のニュアンスから、本人の退職に何か特別な事情があったとも考えられる。現実問題として、一般的に退職者に罰がなければ、相応の言葉の遣り取りがある筈であるのに、今回は賞罰の有無さえ無回答であった事から、更に本人の退職理由に疑惑が持たれる所である。

本人の銀行退職について、当時の居住先の近隣でも、様々な憶測や風聞が飛交ったとされ、どれもが本人の勤務怠慢を理由にした首切りであったと云う結論に行き着く。当時はバブル崩壊から日も浅く、銀行の体質改善の人員削減も、然して取り沙汰されていなかった

た時期であろうと云う。

隣人は「銀行辞めるなんて全く聞いていなかったのに、突然退職したと聞きましたから、何かしら辞めざるを得ない訳があったのだらうね。大体が銀行を途中で辞めちゃう人なんて、特別な理由があって辞めるんだらうが、あの人には辞める理由なんてなかったらうからねえ。」と語り、手先でお金を意味する仕種をして「何かやらかしたんではないですか。」と意味ありげな言葉を続ける。

其の他の退職についての噂は、本人の性格に通ずる所があり、下記の性格欄に記述する。

前勤務先を退職後の本人は、時期を空ける事なく外資系企業の現勤務先へ入職しており、契約社員として生命保険営業職に就いている。

居住先も平成9年3月には、上記本人の現住所へと一家で転居、流石に長女が高校入学となって、其れ迄の居住先での家族5人の暮らしは、困難であると判断した事が転居の理由であったと云う。

2) 人柄・性格

弁が立ち話術にも長け、社交性もあって人間関係の形成も得手とするが、内面から滲む軽薄さや嘘偽りの多い人格から、一般的には信頼関係を築き難いタイプとされ、一步引いた所から傍観する者も多い様である。

近隣等と顔を合わせれば、気さくに挨拶を交わして、時には本人から話し掛けて来るタイプであり、親しみの湧きやすい人柄である

と言われる。周囲からは「実際に話せばひょうきんだし、明るく陽気な人間である。」と云う声が多く聞かれる。

対人関係で社交上手であるのは、其の饒舌で口達者な性質も要因している様だが、反面、口達者な分だけ軽薄な雰囲気も周囲に与える様で、信用性に欠くデメリットも兼ね添えている。

隣人は「口が上手いですから、保険の外交なんか打て付けの仕事だと思うが、取り様によっては、余りにも口が上手いので信用ならないと思ってしまう。」と語る。又、別の主婦も「此方も構えていないと、直ぐに騙されちゃいそうな感じがある。詐欺師だと言う訳ではないですけど、軽々しい印象はありますよね。」と話す。

弁が立つから人を惹き付ける面はあるとされ、ある種の意識的集団の中では、中心人物的な役割を担う傾向にもある。一般の者から見れば、何の変哲もない人物であるのが、宗教的な観点での集団の中では何か目を惹くものがある様で、此れ迄に所属する宗教団体の中で様々な要職に就いて来ているとされる。唯、否定的な見方の者は「人間性の如何はどうあれ、寄付する額で地位が決まるらしいから、其れだけ多くの金銭を突っ込んでいると云うだけでしょ。」と語っており、この意見が正論とも思われた。

大言や嘘も多々見られる様で、此れは本人が依頼者に語った内容と、本件調査結果を照らして見ても一目瞭然である。東京が定住先であるのも嘘、元弁護士であるのも根も葉もない嘘、数々の書物を出していると云うのも周辺で知る者はいない。例え営業トークの一環であるとしても、ある一線を超えれば人間性が疑われるのは当然で、本人の場合は詐称とも言うべき嘘であるから、詐欺師呼ばわりされても仕方のない領域であると思われる。

本人の人間性を語るのに、欠かせないのが本人の信仰する創価学会の存在で、兎に角本人が学会主体の人生を送っている事は、周囲では誰もが認める事実である。前勤務先の当時には、仕事は二の次で宗教にのめり込んでいたとされ、日中仕事をサボって帰宅しては、部屋から関係各方面へ電話したり、夜の活動に備えて休むと云った具合で、宗教活動に専一していたと聞かれる。

銀行の大型バイクに乗って外回りをしていた本人は、仕事をサボるのに自宅へ帰って来ては、マンション内の通路にバイクを隠す様に停めて、銀行へサボりがばれない様に注意していたらしい。しかし、其の内に住人から、バイクが邪魔であると苦情が出ると、以降はバイクの駐輪場所を転々と変えて、自宅へサボりに戻っていたと聞かれる。

そんな本人であるから、前勤務先の退職についても周囲からは「何時もサボっているのがバレて首になったのだろう。」であるとか、「あれ程熱心なのだから宗教活動の資金捻出の為に、業務上の金でもちよろまかしたのではないか。」等と良からぬ噂が出るに至っている。

3) 異性関係

現住所及び前住所に於いては、妻子と同居している本人であり、異性関係のルーズさが頭となる風評はない。夫婦関係は良好な部類に属すと評され、揃って行楽に出掛ける事はないものの、宗教活動で同一の方向性を持合っているから、意気投合する部分も多いのではないかとと言われる。

しかし、現住所へ転居後は、本人の服装は際立って派手で、艶っぽくなっている事は確かであり、帰宅は何時も夜遅い時間帯となる。一旦帰宅した本人が、深夜2時にお客の所へ行くと、仕事と称して再び出掛けて行く事もあるとされ、其の行動には妻も不思議に思ったと隣人に打明けたらしい。打明けられた主婦は「奥さんの前では言いませんでしたけど、そんな時間にお客さんの所へ行く筈もなく、そりゃあ外に女を作っているわよと内心では思いましたね。」と鋭い見解を話す。

4) 交友関係

社会的非難を浴びる人物や、集団との接触はもとより交流もなく、学会員との交友に主軸を置いている。前住所に居住当時から、学会関係者の自宅への出入りも非常に多く、狭い部屋内に人が溢れた事さえあると聞かれる。

現住所でも学会関係者の出入りの多さに、近隣から苦情が出た程であり、隣人は「騒いだり大きな物音を立てる訳ではないが、頻繁に人が出たり入ったりするだけで、多少はバタバタもしますし、近所へも落ち着かない空気が流れるので、如何しても気になりますからねえ。いい迷惑であるのは確かだ。」と語る。

5) 健康状態

過去に大病を患った形跡はなく、持病や既往症の話題も聞かれず、心身共に健康体であると評される。

実家に暮す父は、肝臓を悪くしているとされるが、酒好きが祟つての病であると言われ、母や妹には現在健康を害していると云う風評はない。

6) 思想

前欄から記述しているが、若き頃からの熱烈な創価学会信者であり、其の宗教活動への傾倒は尋常ではないとも評される。無論、支持政党は公明党であり、ビラ撒きや口利きを始めとする選挙支援活動も殊更熱心である。本人を知る者ならば「完全に宗教へのめり込んでいる。」と誰もが口にする。前住所に居住当時は、支部の青年部長を務めており、現在では〇〇〇支部の支部長職に就くと言われる。

両親が学会を信仰したから、本人も宗教に走ったのではないかと思われ、本人に負けず劣らず、本人の妻も宗教活動に傾倒している。

7) 生活状況・風評

◎前住所より

(大阪府大阪市〇〇区〇〇2-〇-4〇〇マンション2階)

J R 阪和線・南田辺駅北東200m内外、駅東口前を横切る駅前商店街の東側に広がる住宅地の一面に位置し、駅からは徒歩数分にある。

片側一車線の4m幅の通りにいきなり立つ建物は、白い外装の鉄筋コンクリート3階建、外壁には輝も多く目立ち、老朽感は否めな

い外観を呈している。マンション部の西側には、大家である「〇〇酒店」（06-〇〇〇〇-0008）の建物が繋がり、全体的に複雑な造りとなる。外観からマンション部は一つの建物に見受けられるが、実際には内部で二手に分れており、路地に面して其々2ヵ所の出入口が設けられる。向って右手の出入口を潜ると、幅の狭い階段が延びており、2階と3階に各2世帯ずつが入居出来る。左手の出入口を潜ると、細い廊下が正面へ延びており、廊下の突当たりは1階に入る1室の玄関、突当たり左手は狭い階段の上り口となり、2階に4世帯、3階に1世帯が入居出来る。何れの建物内も日中から薄暗く、階段も軋みが生じる簡素なもので、其の古めかしい造りからは埃臭さえ漂う。

本人家が暮した部屋は、向って左手の出入口を使用し、階段を上った2階の奥側右手の部屋であり、建物南側に面している。部屋の間取は、6畳と4畳半、台所の2DKタイプ、家賃は月額4万8千円であった。不動産管理は「〇〇不動産」（大阪市〇〇区〇〇2-〇-23、06-〇〇〇〇-6623）。

同所に本人は、結婚後から平成9年3月迄の20年間を、妻子と共に一家5人で居住していた。子供が幼少期ならまだしも、思春期を迎える子供を抱えての一家5人暮らしでは、同所の間取は相当狭かったと思われ、大家からして「子供さんはどんどん大きくなっているのに、ようこんな狭い所で暮してんなあと思って見えました。」という程である。

同所に居住中の本人は、生活振りも質素なものであったとされ、衣食住には金銭を掛けていなかったと評される。スーツは何時も同じものを着て、冬ともなれば大昔のコートを羽織っていた様である。

複数の隣人から「暮らし向きが質素な分、宗教にお金をつぎ込んでいた様だ。」と聞かれる。

近隣との付き合いも挨拶程度のものであり、長い居住であったから、顔見知りと会えば言葉も交したが、基本的に学会関係者以外の者とは、親しい付き合いに発展する事はなかったと云う。

◎現住所より

近鉄南大阪線・土師ノ里駅南西500m内外、仲津媛皇后陵の南側に面した住宅地の一面に位置する。国道170号線の東側に広がる付近は、一戸建中心の住宅地であり、駅からは徒歩10分強にある。

建物は、グレー外装の軽量鉄骨2階建、各階2世帯ずつ全4世帯が入居出来る賃貸アパートであり、北側には仲津媛皇后陵の鬱蒼とした緑地が迫る。平成9年に竣工したアパートであり、未だ真新しい外観を保っている。建物は南向きに立っており、正面中央に階段が入り込んで、階段に面して各室の玄関が並ぶ。建物先の路地沿いに居住者用の駐車スペースが設けられ、同スペースの右手は駐輪場となる。2階へ上がって左側、東角部屋が201号室であり、同室玄関脇の表札には家族全員の氏名が記載される。南向きに設けられるベランダには、カラフルなトレーナーやTシャツ、シーツが干されており、窓には白いレースのカーテンが引かれていた。

部屋の間取りは3DKタイプ、総込みの家賃は月額8万6千円とされる。大家は明らかとならなかったが、管理不動産は「(有)〇〇ホームコンサルタント」（藤井寺市〇〇〇1-〇-12、0729-〇〇-4277）。

同所に本人は、新築時の平成9年3月から一家5人で暮している。3DKの間取があるが、其々の子供達の年齢を考えれば、決してスペースにゆとりはなく、窮屈な暮らしは相変わらずの様である。

しかし、前住所と引換え同所では、本人家のリッチな暮らし振りが見られており、普段の衣食に纏わる所から、最低年一回は家族全員で海外旅行へ出掛けたり、本人はタクシーを出勤時から使用したりと、金銭乱費の傾向も窺える。そんな本人家を隣人は「確かにリッチな暮らしをしていますが、そんなにお金があるならば、何もこんな狭いアパートに暮す事もないのにとおもいますよ。」と否定的に見ている。

本人は、毎日昼頃にゆっくりと出勤して行き、自宅からタクシーを使用する事も多い模様である。帰宅は大抵が夜半であり、時間が不規則な毎日を送っている。又、本人は服装面でも、前住所当時とは打って変って、派手で目を惹くものが多い。ワイシャツやネクタイも原色の目立つ色合いであったり、ピンク色のスーツを身に着ける時さえあるから、近所の主婦は「最初見た時は、アレッと驚きましたよ。普通のサラリーマンなら着ない色物ですから、何のお仕事をしているのだろうかと思った。」と語る。

近隣とは親しい付き合いは交されておらず、本人から率先して言葉も掛けて来ると云うが、隣人達は距離を置いた付き合いで移行している。近隣に対して本人は、保険の営業は掛けないものの、創価学会への勧誘は折を見て行っている。

◎実家より

所在地 大阪府〇〇市〇〇区〇〇東〇－6－14

電話 06－〇〇〇〇－5524

阪堺電軌上町線・帝塚山四丁目駅北方200m内外、駅東方に延びる商店街から逸れた住宅地の一面に位置する。駅からは徒歩数分の近さにある。

車輛の進入不可能な裏路地に面する建物は、白い外装の軽量鉄骨2階建、各世帯1階と2階を使用出来る、長屋風集合住宅の造りであり、路地に面して横たわっている。同アパートには4世帯が入居出来、アパートの右手には一戸建が繋がり、更に左手には2世帯の平屋建長屋が続く。路地から向って左から2室目が、本人の実家の入る部屋となり、玄関上に掲げられる表札には「〇〇幸夫、圈子、典子」と記載される。玄関先には、紫色のシートが被せられた自転車が1台駐輪されていた。各室の間口は非常に狭く、奥行きも然して深くないから、1階と2階で4Kの間取があるものの、全体的に狭く窮屈な造りとなる。家賃は月額6万円とされ、大家は「〇〇正壱」氏（大阪市〇〇区〇〇東〇－6－15、06－〇〇〇〇－2802）。

同所に本人の両親は、昭和62年4月から居住しており、妹の〇子も同居する。新聞配達員として勤務した父も、定年退職後は隠居暮しで、母は以前から専業主婦である。〇子は学習塾に勤めるとされ、未婚の独身者である。一家して創価学会信者となる。

大人しい性格から、無口で多くを語らない父は、体調が悪いのか最近では余り姿を見掛けられていない。見栄っ張りで大言が多いとされる母は、近隣の主婦からも不評が多く聞かれており、年金暮し

であるにも関わらず、毎日買物へ行っては食材やらごっそりと買い込んで来るとされる。

隣人対して母は「息子は大きく立派な家に暮しているので、何れはそっちへ同居するから、今の所はこんな狭い借家でも構わないのである。」と良く口にすると云う事である。

(実家の家族構成)

父 ○○ 幸夫 昭和 ○ 年 6 月 4 日生 (○○才)

母 ○○ 圀子 昭和 ○ 年 1 0 月 2 0 日生 (○○才)

妹 ○○ 典子 昭和○○年 6 月 2 2 日生 (○○才)

8) 勤務状態

平成7年頃から契約社員として、上記の現勤務先に在職しており、コンサルティング販売による生命保険の営業職に就く。

現勤務先は、○○○に本社を置く「○○○」(○○○・カンパニー)、通称○○○の日本支社となる。世界130カ国にて事業展開する大手保険会社「○○○」(○○グループ・インク)の子会社の一つとして○○○は存在し、生命保険販売を手掛けている。○○○の子会社としては、他に損害保険の販売を手掛ける「○○○保険」や「○○○ホーム保険」が日本法人を持つ。

○○○の日本支社となる○○○ジャパンは、国内本社を「東京都○○区○○1-○-3」(03-○○○○-4111)に構え、各地に支社が所在する。各支社の管轄として、各地区エイジェンシー統括部が設けられ、其の傘下に幾つものオフィス(コンサルティング営業事務所)が置かれる。

本人の所属する「○○エイジェンシーオフィス」は、大阪支社内

にあるエイジェンシー近畿地区統括部に属し、元々大阪市内に散らばって事務所を構えた各エイジェンシーオフィスは、利便性の理由から現在では全て大阪支社と同一所在地となる。

大阪支社が入る〇〇ビルは、J R大阪環状線・桜ノ宮駅南方500 m内外、通称天満橋筋の東側、大川西岸に面した一画に位置し、東天満公園や桜ノ宮公園が隣接して所在する。

当該建物は、周囲でも一際目立つ存在として聳え、地下1階、地上〇〇階建の高層オフィスビルとなる。2階迄に各種店舗が入り、12階はクリニック専用フロアー、他階には各企業のオフィスが入る。2階部が広々としたロビーとなり、行き先階毎に分れるエレベーターが中央に並んでいる。同支社は、〇〇階、〇〇階のワンフロアーと〇〇階の一部に、各部署を設置している。

〇〇〇での生命保険販売には、通信販売と代理店経由の販売、対面販売の3つの販売形式がある。対面販売とは、客と実際に対面してコンサルティングを行いながら販売して行くもので、本人の所属するエイジェンシーオフィスの営業は対面販売が主となる。

各エイジェンシーオフィスには、管理者としてマネージャー、サブマネージャーが配置され、其の下にコンサルタント営業職員が所属する。本人は、コンサルタント営業職員である訳だが、この営業職員にも肩書きによって3ランクがあり、手始めが「コンサルタント」のみの肩書き、次に「キャリアコンサルタント」、更に上が「シニアコンサルタント」と上級となる。本人の名刺には、シニアコンサルタントの肩書きがあるから、コンサルタント営業職員としてベテランで、幅広い知識を持つ最上級の肩書きとなるらしい。

本人の名刺に入る「世界〇〇会議成績資格会員」の記載は、〇〇

○とは別組織であるが、本部をアメリカシカゴに置く実在組織で、世界の生命保険営業職の成績優秀者に与えられる栄誉である。資格を得た者のみ名刺に記載が許されており、○○○に在籍する営業職員3千名の内、200名程しか資格を持たないと言われる。

2. 家族について

妻 ○○ 満○子 昭和○○年 5 月 25 日生 (○○才)

長女 ○○ ○香 昭和○○年 1 2 月 8 日生 (○○才)

二女 ○○ 舞 昭和○○年 3 月 1 1 日生 (○○才)

長男 ○○ 正義 昭和○○年 9 月 2 7 日生 (○○才)

(上記本人の現住所に居住)

妻・○子は、結婚後から現在迄を専業主婦として過ごすが、宗教活動にて忙しく動き回る毎日である。現在では本人よりも熱心なのではないかとされ、ある者は「旦那さんが仕事で時間を割かれるので、奥さんが旦那さんの分まで色々と動いていると聞いた事がある。」と話す。

車に乗らない満○子は、外出には自転車を使用しており、日中も彼方此方を自転車で走り回る姿が見掛けられるとされ、帰宅も連日夜遅い時間帯が多い様である。宗教に主を置く生活を送るから、主婦業も疎かになりがちで、子供達もほったらかしている状態と聞かれ、近所の主婦は「あれでは子供さん達が可愛そうだ。」と語っている。

性格は明るく気さくであり、和やかな印象の取っ付き易いタイプと評されるが、直ぐに宗教へ勧誘したり、選挙の際の頼み込みも執

拗であるから、周りの主婦達には若干煙たがられている。主婦の間では「とっても人柄は良い人なのに、学会に入っていないからねえ。」と噂に上がるとされ、学会活動に熱心なのが唯一の欠点の如く言われている。

長女・○香は、近在の短大へ通う短大生である。中学生時代に学習塾へも通わせて貰えなかったにも関わらず、自力学習で進学校「東住吉高等学校」へ入学したとされ、高校卒業後は短大へと進学して、現在短大1年生であると聞かれる。今時のお洒落な女子であるが、真面目なタイプであるとされ、夜な夜な遊び歩く素行も見られていない。

二女・舞は、近在の高校へ通う高校1年生、長男・正義は、地元中学へ通う中学2年生である。舞は、若干大人びたお洒落をして派手ではあるが、今時の高校生にすれば普通な程度であろうと言われる。正義は、未だ子供っぽさの残る中学生と評される。何れの子供達も、放任主義な家庭に育っているが、非行や不良化も見られず、社会的に非難を浴びる人物、集団との接触や交流の話題もない。

以　上。